

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470500675		
法人名	(有)介護センター田中		
事業所名	グループホーム渚園		
所在地	津市柳山津興382-4		
自己評価作成日	平成24年 9月21日	評価結果市町提出日	平成24年12月28日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成24年10月 5日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家事をしたり、畑で野菜や花を作ったりなど、各自が役割を持つことで、自信を取り戻し、日々の生活を張りのあるものにしていただけるよう、サポートしたいと考えている。また、一人ひとりのペースや考えを大切にし、その人らしいサポートをしていけるよう努めている。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

毎日、近くの海岸まで歩いて散歩をすることを日課としており、歩くと言うことを重視し、下肢の機能を維持することに心掛けています。理念にある自分らしく生きることを①排泄面でもオムツではなく布パンツにする②食事において主食は利用者がよそう③出来ることは職員と共にする等、日々の介護で実践している。会話をするときは、職員は利用者と同じ高さで話かけを行ったり和やかな雰囲気である。地域との交流も大事にしており、事業所から声掛けを行い近隣の方々に理解してもらおう努力をしている。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の中で「自分らしく生きる」を理念とし、「風と共に生きる」をサブタイトルとして、実践している。	理念に基づき利用者が中心で、職員はサポートであり足りない部分を支援し、自然な形で暮らすことができるよう支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会や老人会、近隣の保育園の協力を得て、行事に参加している。また、地域へ散歩へ行ったり、地域の方が色々なボランティアに来てくれている。	自治会、保育園児との交流、中学生の職場体験受け入れ等を継続している。運営推進会議で地域の方の橋渡しで雑巾を中学校にプレゼントしたり、喫茶店を開催し地域の方を招き、地域の方々と楽しむ等日頃から交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会に頼まれて、認知症についての講演をしている。また、相談も受けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会役員、家族会代表、津市職員に来ていただき、運営推進介護をおおむね2ヶ月に1回開催している。	奇数月に実施しており、自治会長、地域住民、家族代表、市の担当者等で構成されている。又、隣接する店の方々やボランティアの方々にも参加してもらっている。地域住民の方が中学校とのパイプ役となり職場体験の受け入れ等をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加してもらい、事業所の取り組みを理解してもらっている。	運営推進会議以外には、管理者が市の2つの会議の委員となり意見を市に発信している。又、三重県地域密着型事業所連絡協議会の役職にあることで行政との連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は、身体拘束をしてはいけない事をよく理解しており、日ごろから世間での出来事についても討論している。	玄関は施錠されておらず、前の店に買い物に出かける利用者もいる。新人研修の時に拘束について勉強会を行うと共に、その都度、実践の場において管理者が説明、指導を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は、虐待をしてはいけない事をよく理解しており、日ごろから世間での出来事についても討論している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者、総括長は成年後見制度についての研修を受け、身内や職員と話し合っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約・改定等の際は、利用者・家族が理解、納得するまで十分な説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族とよく話し合い、家族の意向や希望を把握し、実行できるように努めている。	面会時に家族と話したり、管理者は携帯電話番号を家族に周知し何時でも相談できる体制をとっている。又、家族会、一泊旅行、運営推進会議等の機会にも把握するように努めている。家族の提案で被災時のライフジャケットを設置している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングの場だけでなく、実践の場でも常に意見を聞いたり、話し合ったりして、運営に反映させている。	朝のミーティングや日々の職員の表情を見て声掛けをし、職員の声を聴いている。メールで職員とのやり取りをしたり、食事会をする等、日頃から意見を把握するように努めている。今年度は休憩室を設ける等、職員の意見を反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者や職員の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるよう、職場環境・条件のよりよい改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外の研修を受ける機会を作り、進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	三重県地域密着型サービス協議会に加盟し、勉強会に参加するなどして、同業者と交流し、意見を取り交わしてサービスの向上に反映させている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人に来園していただき、思いや要望、困っていることを聞いて、本人が安心につながるような関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族に来園していただき、今まで頑張ってきたこと、困っていること、不安、要望などを聞き、信頼関係を作っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	よく話を聞き、最適な支援を見極め、よりよいサービスにつながるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、本人に敬意をもって接し、暮らしを共にする者同士の良好な関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、本人にとって、家族がかげがえのない存在だということを良く理解しており、共に本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前からの馴染みの関係を継続させ、関係が途絶えないように、友人の訪問・美容院・かかりつけ医へ行くなどの支援を実践している。	面会に来てもらい易いように面会票を設けずその都度、職員が記録し残している。面会の方が来やすいように日頃から気を付けている。かかりつけの美容院や行きつけの店へ出かける等の支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士で散歩や買い物に行っている。利用者同士の関係を把握し、常日頃から孤立する者がでないように、配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族に生前の写真を送ったり、手紙をもらったりし、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて相談や支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや希望、意見を聴く機会を多く持ち、生活に潤いが持てるように努めている。また、スキンシップも大切にしている。	家族から話を聞いたり、利用者の顔色・表情・雰囲気等を見ながら把握している。職員間では情報交換を行い共有している。訴えない利用者には言葉を重ねること・表情等から把握するように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族・親戚・友人等、馴染みの方から話を聞き、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は、一人ひとりによく目を配り、日々かわる体調、心身状況を把握するよう努め、職員間で共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族・関係者の意向を聞き、ケアプランを作成している。毎月園内でミーティングを行い、評価・見直しを行っている。	計画は3ヶ月に1度見直し、モニタリングを毎月実施している。担当制ではなく、職員は原則、全員参加のミーティングで全職員で検討している。管理者が家族及び医師から意見を事前に聞き、計画に反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、ケアの実践・結果、気づいたことなどを個別に記録し、職員間で情報を共有して、ケアや見直しに繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の希望を聞き、その時々、個々の状況に合わせて柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	馴染みの美容室に行ったり、馴染みの人に出かけたりして、本人が自ら心身の力を発揮しながら、安全で豊かな暮らしを楽しめることができるよう、支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほとんどが訪問医の往診を受けているが、馴染みの医師、病院などにかかっている人は、一緒に受診している。	入居時に利用者及び家族に説明しており、協力医がかかりつけ医である方が大半である。往診をしていただける眼科、歯科医の協力も得ており、他科の受診は事業所が支援している。夜間及び急変時は協力医に電話で指示を仰ぎ対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日ごろから本人の体調を把握し、かかりつけ医・看護師に報告、相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には、病院に本人の情報を提供し、病院関係者と情報交換や、相談をしている。また、そうした場合に備えて、日ごろから病院関係者との関係づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の説明で、重度化した場合の支援について本人・家族と話し合いをしている。実際に重度化したときは、変化があるごとに家族・職員間で納得するまで十分に話し合いをし、共に支援に取り組んでいる。	重度化等の方針を入居時及び状態変化時に家族に説明している。家族の希望があれば職員と話し合い、看取りを支援する考えである。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急隊員から、応急手当を習い、職員間でも緊急時に対して、話し合い、実践力を身に付けるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、防災避難訓練を実施している。終了後、問題点などを職員間で話し合い、効率よく避難できるように考えている。また、日ごろから地域との協力体制を築いている。	9月には津波を想定、高い場所への移動を行う訓練を実施し、訓練後の課題を検討している。12月には地域住民に参加を呼びかけての訓練を計画している。津波の不安があり、ライフジャケットの設置等、できる範囲内での取り組みをしている。	昼間のみではなく夜間の訓練を行い、より災害対策を充実し、家族・職員等の不安軽減ができることを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、支援の場でプライドを傷つけないような対応を常に心がけている。	実践において言葉使いに特に注意し、人として考え接することを重要視している。トイレの戸を閉める、部屋に入る時はノックする等注意を払っている。呼称について本人に確認し、希望の呼び方を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日ごろから本人とコミュニケーションをとり、信頼感関係を築くことによって、本人が気軽に思いや希望を表したり、自己決定ができるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にしている。希望に添えない場合は、必ず説明をして理解してもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみやおしゃれができるように、服装・髪形等に気配りをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と一緒に食事を作ったり、配膳をしたり、後片付けをしている。	盛り付けや茶碗拭き、皮むき等利用者が出来る範囲で参加している。献立は園長及び担当職員が利用者の希望を聞き反映している。ご飯は自ら利用者がよそっており、職員と共に和やかに食事をしている。外食や手作りのおやつも楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食、栄養バランスを考えて食事を手作りしている。一人ひとりの状態や食べる量を把握し、個々にあった支援をしている。水分摂取が少ない人は記録し、確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、本人の力に応じて、自発的に口腔ケアをしていただけるよう努めている。難しい人には手助けをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	「排泄はトイレで」を基本に、できる限りオムツ・ポータブルトイレを使用しない介護を目指し、支援している。	トイレでの排泄を原則としている。入居時に布パンツにし、時間的に誘導・排泄のパターンを把握することでリハビリパンツの方は1人のみである。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	散歩を日課にして、歩く事によって、便秘の解消に努めている。それでも解消できない場合は、主治医に相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日はおおむね決まっているが、毎日でも入浴できるシステムとなっている。順番、タイミングなどは本人が納得のいくように工夫し、個々にそった支援をしている。	1日置きに午後、入浴を実施している。階段式の浴槽と移動が困難な方が容易に入れる浴槽が設けられている。入浴を拒否する方には家族の協力を得たり、声掛けする職員を変えて支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣・体力・日々の状況に応じて、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬を把握し、服薬支援をしている。また、かかりつけの薬局と情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除、洗濯等、一人ひとりが役割を持って仕事をしてもらっている。また、個々の力に合わせてカルタやボールころがしなど、レクリエーションの時間も大切に支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望にそって、買い物や美術館にでかけたりしている。年に1回、利用者と家族と職員で一泊旅行に出かけている。	毎日、近くの海岸まで散歩をしており、歩いて散歩することを大事にしている。天候が悪い時には事業所内でゲームを楽しみながら歩行をする等の支援している。年1回の宿泊旅行の行き先は利用者の希望を聞き、家族と共に出かけている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	人によっては、レジでお金を払ってもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも電話や手紙のやり取りができる。電話がかけられる人は、自分でかけてもらっている。自分でかけられない人は、職員がかけて、手渡している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	2ユニット間を自由に行き来でき、近所づきあいを構築している。一緒に掃除をし、清潔を保っている。また、季節の花を活けたり、工作をしたりして、季節感を取り入れている。	居間には、利用者が生けた季節の花が置かれており、ユニット間を自由に往来できるようになっている。風呂場の前には椅子が置かれた休憩スペースが設けられている。居間、台所が広く、玄関脇に畳のスペースがあり、家族及び利用者がゆったりとくつろげるよう工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下や玄関にテーブルやイスを置き、居場所を作っている。テレビの前にはソファを置き、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談しながら、馴染みの調度品や写真で部屋を飾り、居心地よく過ごせる居室づくりに努めている。部屋の入口にはのれんをかけ、季節感を演出するとともに、プライバシーを守っている。	ベッド、クローゼット(箆笥)が備え付けられている以外は、馴染みの家具が置かれている。姿見の鏡や家族の写真が飾られている。利用者が生けられた生花が置かれる等気配りされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各部屋に名前・目印・写真などをつけ、間違えないように工夫している。		